

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2020 年 9 月号掲載



日本中央競馬会所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全国日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全国日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。20年4月にJRA日本中央競馬会入会。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

馬心伝心 —奮闘記part II—

佐々紫苑

Shion Sassa



今年の8月は体温を上回るような厳しい暑さが続きましたね。どちらかといえば、寒さに強く、暑さに弱いといわれる馬たちには、日本の高温多湿の夏は身体的に負担の大きなものです。いつも以上に私たちも、パートナーたちのコンディション作りには注意しなければなりません。例えば、どんなに汗だくになってもなかなか水を飲もうとしない馬であれば、餌の水分を多めにしたり、電解質のサプリを加えたり、飲み水にス

ポーツ飲料を混ぜる、なんてこともあります。

私が乗っていたWINNIDOUは、スポーツドリンクが大好きで、夏だけでなく、冬でもゴクゴクと音を立て、本当においしそうに飲んでいました。また、水分だけでなく、塩分も大切。いつでも気の向いたときに塩分摂取ができるよう、岩塩の塊を馬房の中につるしたり、飼いおけの中に入れておくこともあります。夏季の練習は、朝4時頃からスタートし、お日さまがカンカンと照りつける昼間は涼しい厩舎でゆっくりとお休み。夏のルーティンは、こんな感じです。

以前のオランダの大会では、会場に馬用と人用の氷水が用意され、私たちよりも馬の方が気持ち良さそうに鼻づらを突っ込んでいました。また、馬房の前には扇風機を置きますが、風が当たったときに気持ちのいい部分は、馬それぞれで違うようで、QUANDOはいつも顔、それもおでこでした。WINNIDOUは体の左側に風が当たるよう、自分でポジションを決めていました。



風を浴びて前髪をたなびかせるQUANDO (本人提供)

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

騎手、調教師、獣医師、装蹄師…、馬に関わるお仕事がたくさんある中で、『サドルフィッター』というお仕事があることをご存じですか？

『サドル』は日本語で『鞍』。『フィッター』は『合わせる人』といったところでしょうか。つまりサドルフィッターとは、鞍を人馬に合わせてお見立てするお仕事のことです。

馬術競技において鞍は、騎手と馬がコミュニケーションを図るとても重要な道具です。鞍が合っていないと馬の動きが鈍ったり、小さくなったり、最悪の場合、馬が背中を痛めることもあります。人馬に合わせて鞍をオーダーすることも可能ですが、既製品を直して合わせることも場合によっては可能なのです。

今回出会ったドイツ人のサドルフィッター・Fabian Greinertさんは、特注のワゴン車でヨーロッパ各地の厩舎に出向き、その場でサドルフィッティングをしながら鞍を改造する超凄腕の持ち主。鞍を馬の背中に乗せる→確認→(場合によってはさらに人が乗って運動している状態で確認)→作業台で直すという作業を繰り返します。一切の妥協を許さず作業をしている姿がとても印象的でした。



ワゴン車の後ろには作業台が設置され、数々の工具が並んでいました (本人提供)